

「加入者情報システム」の稼働について

株式会社証券保管振替機構（保振）では、平成21年（2009年）1月の実施が予定されている株券等の電子化に向けた対応の一環として、本日、「加入者情報システム」を稼働しました。

現在、株主名簿作成のための株主の名寄せの業務は、発行会社が指定する株主名簿管理人が発行会社ごとに行っていますが、電子化後は、株式事務全体の効率化の観点から、保振がすべての上場会社のすべての株主について、一括して名寄せを行うこととなっています。

加入者情報システムは、この株主の名寄せと名寄せ後の加入者（株主）の情報を管理するためのシステムであり、保振は、保振に口座を開設する口座管理機関（証券会社や銀行等）から加入者の住所・氏名等の情報を受領して名寄せを行い、名寄せ後の加入者情報を株主名簿管理人に通知します。株主名簿管理人は、この加入者情報を利用して株主名簿を作成・管理することとなります。

株券等の電子化は平成21年（2009年）1月の実施が予定されていますが、新制度への円滑な移行を確保する観点から、1月の一斉移行に先立って、株主名簿管理人、口座管理機関、保振の三者が協力して事前に加入者情報のデータ整備を行ったうえで、本日から加入者情報システムを稼働させたものです。なお、保振から株主名簿管理人に対する新たな仕組みによる株主情報の通知は、本年10月下旬から実施する予定としています。

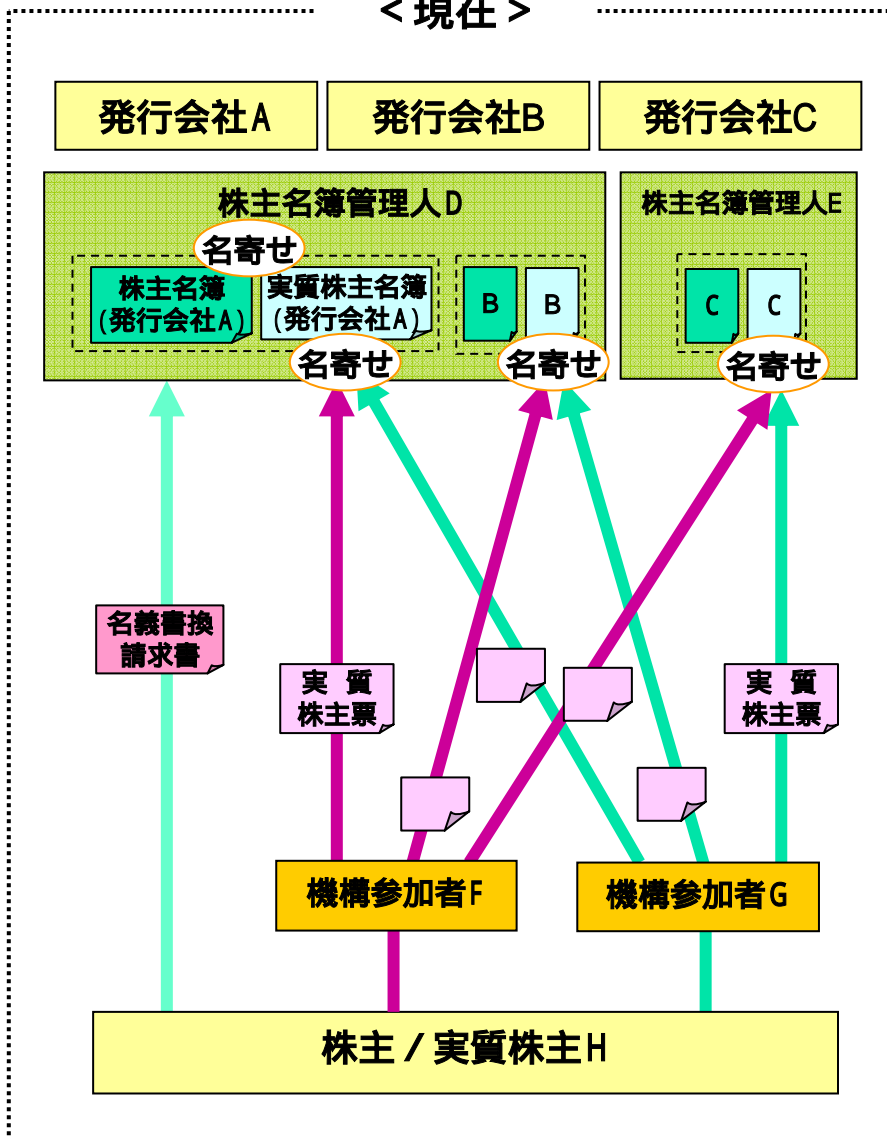
以上

< 問合せ先 >

経営企画部 03-3661-0295

加入者情報システムによる名寄せの効率化

< 現在 >



< 電子化後 >

